

膀胱原発小細胞癌の1例

奈良県立医科大学附属病院病理部¹⁾同大学病理病態学講座²⁾同大学病理診断学講座³⁾
○田邊雅世 (CT)¹⁾ 島田啓司(MD)²⁾ 小関久恵(CT)¹⁾ 平山真央(MT)¹⁾ 西川 武(CT)¹⁾ 田中京子(CT)¹⁾
武田麻衣子(MD)³⁾ 榎本泰典(MD)¹⁾³⁾ 笠井孝彦(MD)¹⁾³⁾ 小西登(MD)²⁾ 野々村昭孝(MD)¹⁾³⁾

症例

患者:76歳 男性

既往歴:Tubular adenoma (大腸) 1995.1997

N.C.N (顔面) 1998

Hyperplastic polyp G1 (胃) 2006.2010

Angiolipoma (右上腕.背部上.背部下)

2010

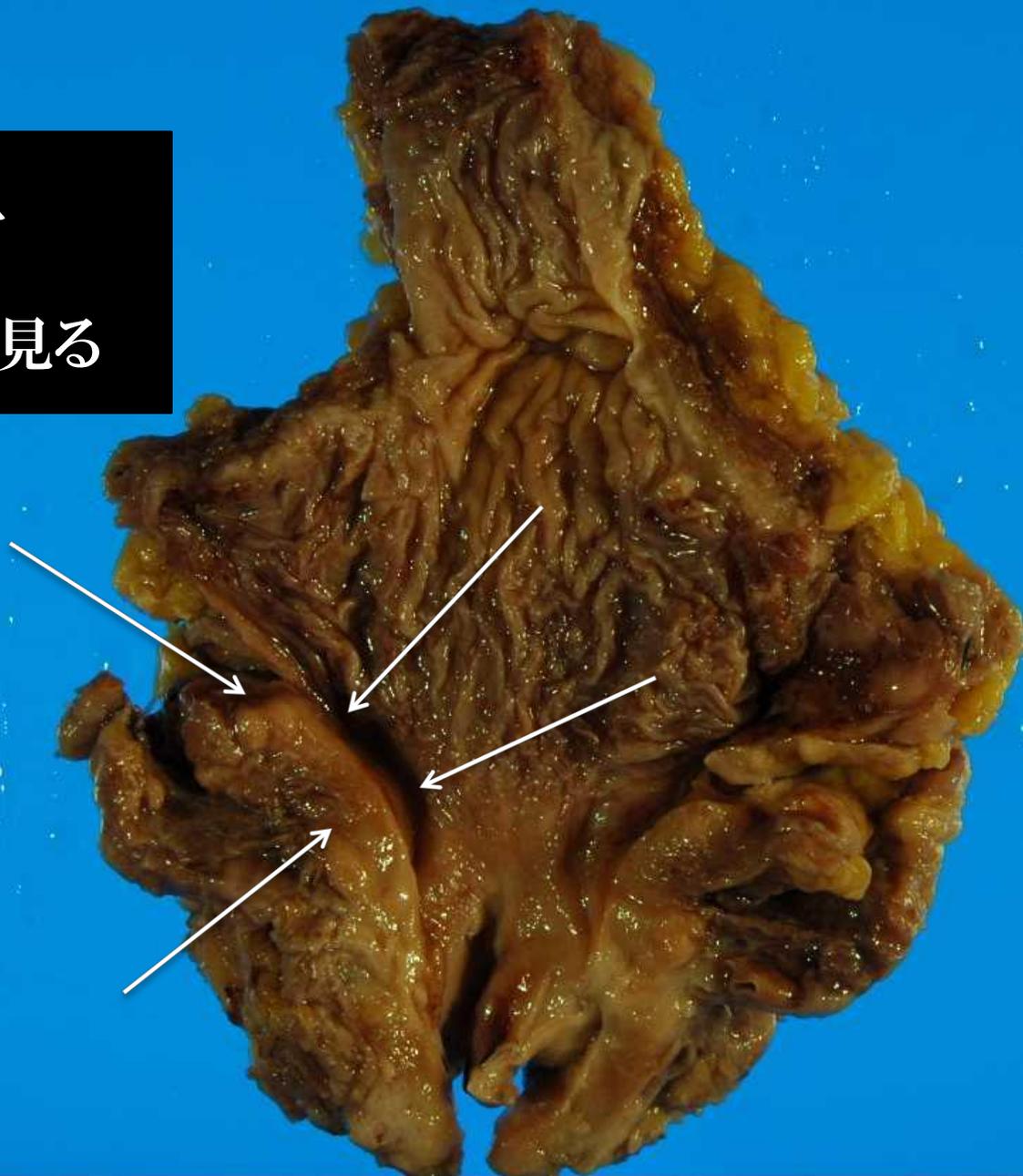
糖尿病

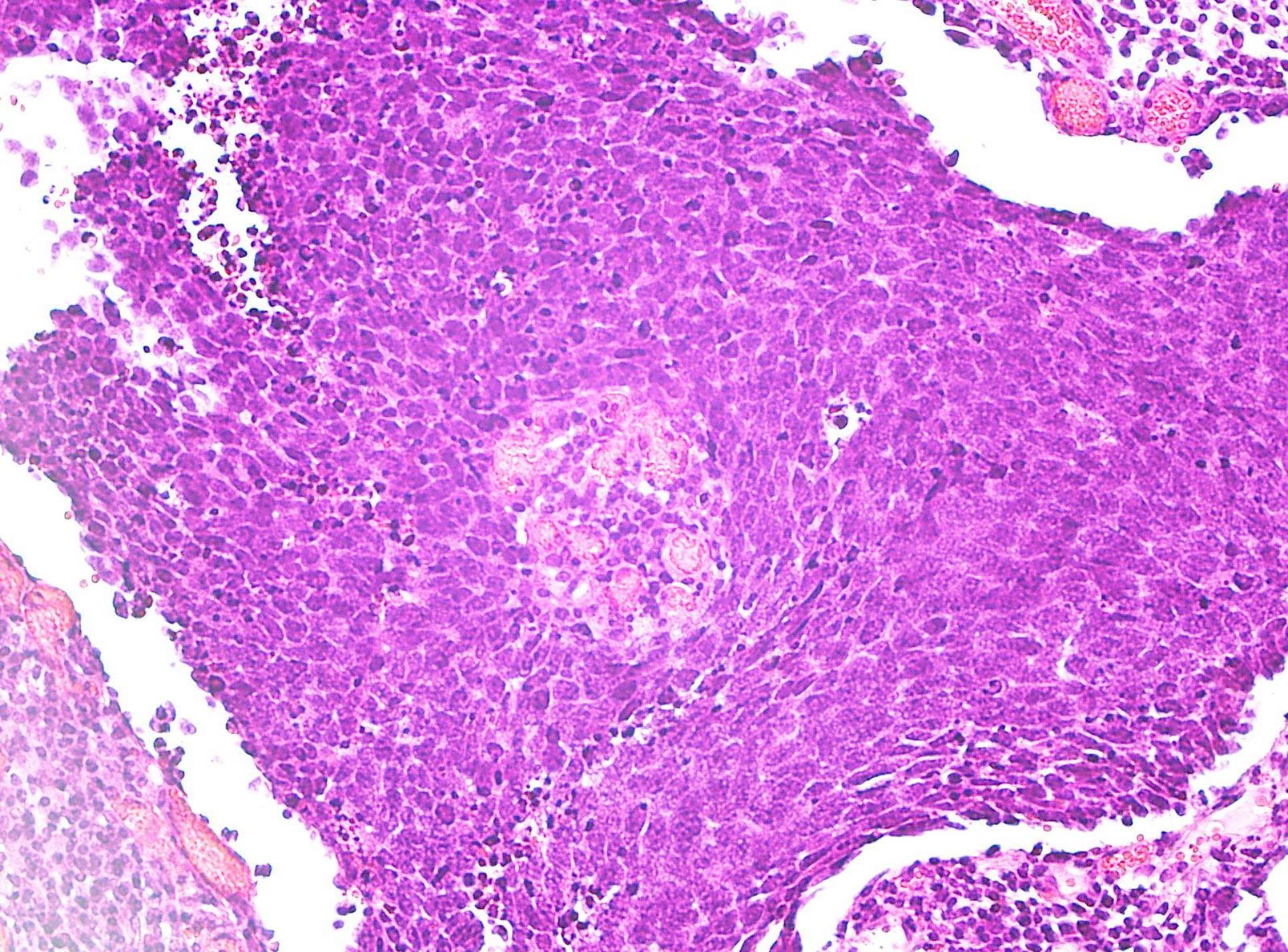
不整脈原性右室異型性症

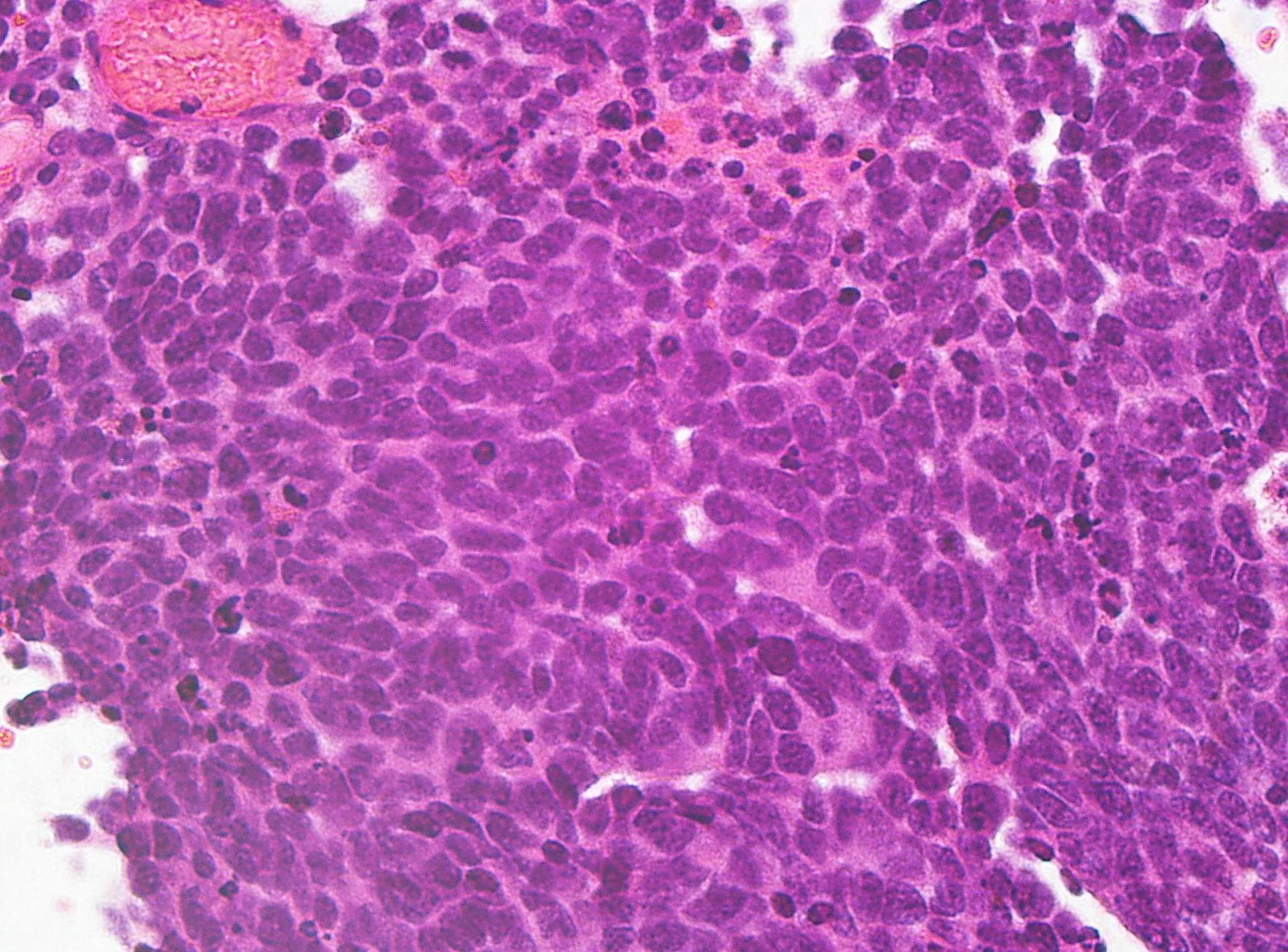
**主訴:不整脈原性右室異型性症にて循環器内
科受診中、無症候性血尿あり泌尿器科受診**

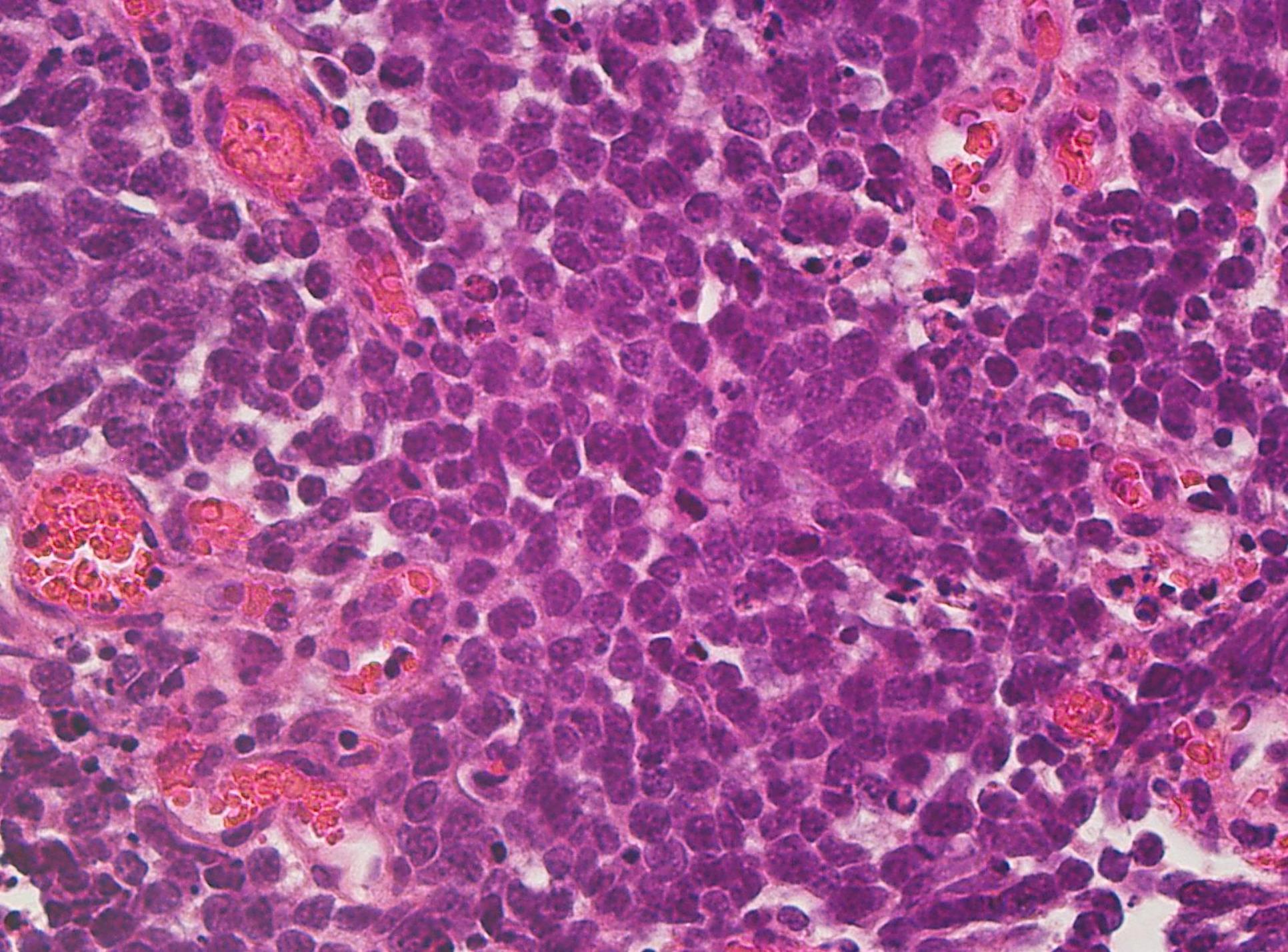
膀胱全摘材料

右尿管口に腫瘍を見る









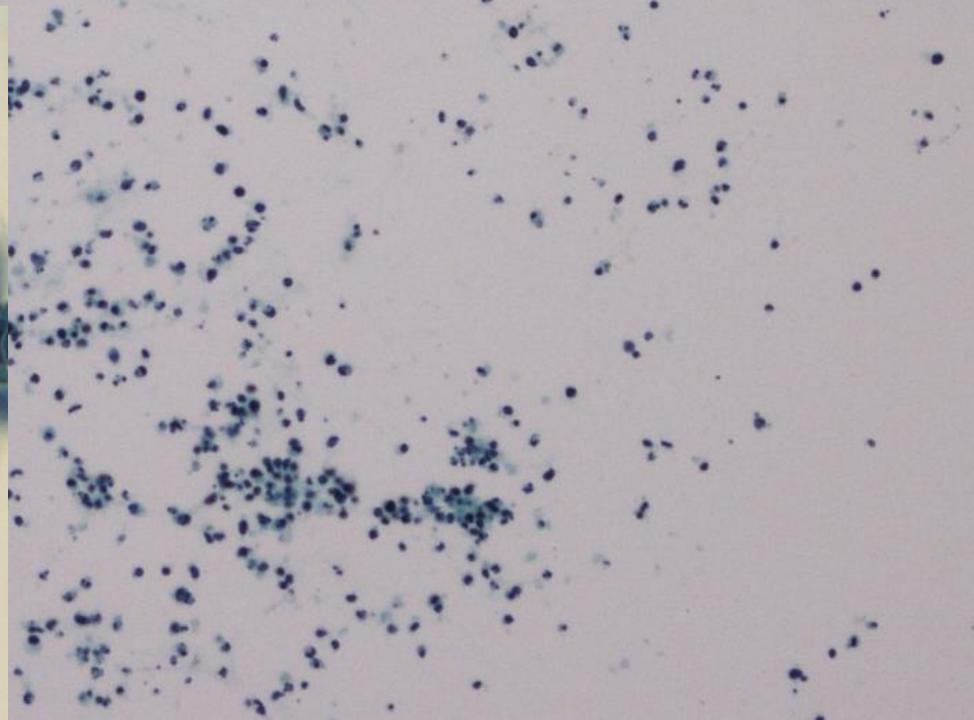
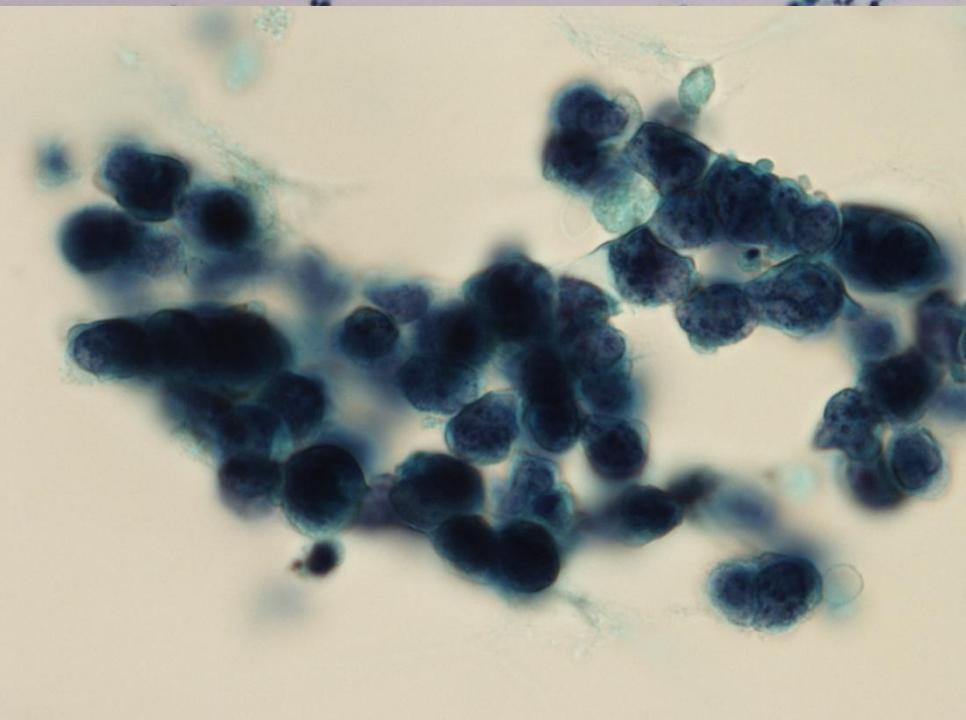
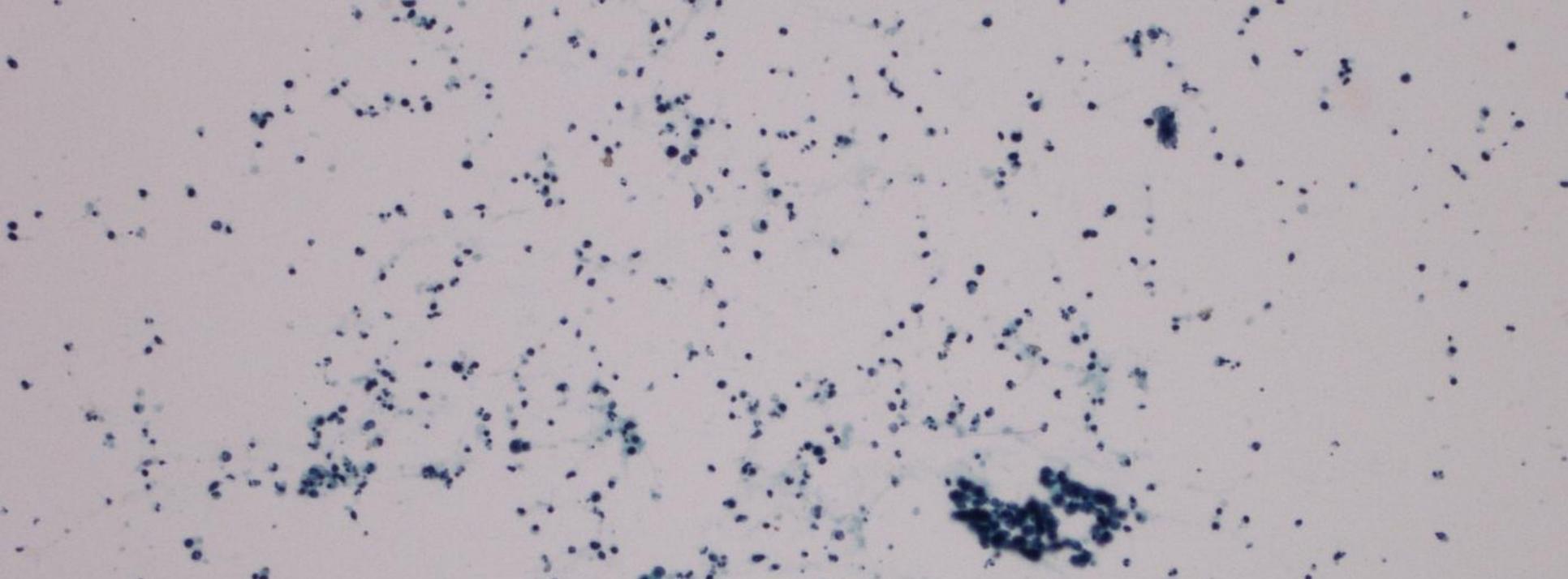
免疫染色

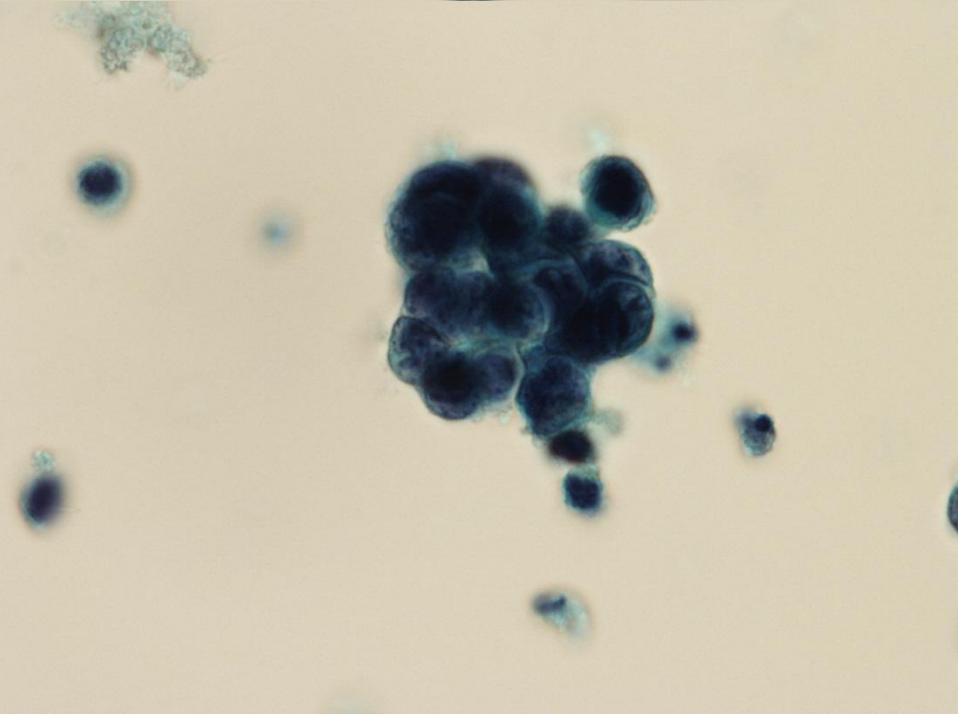
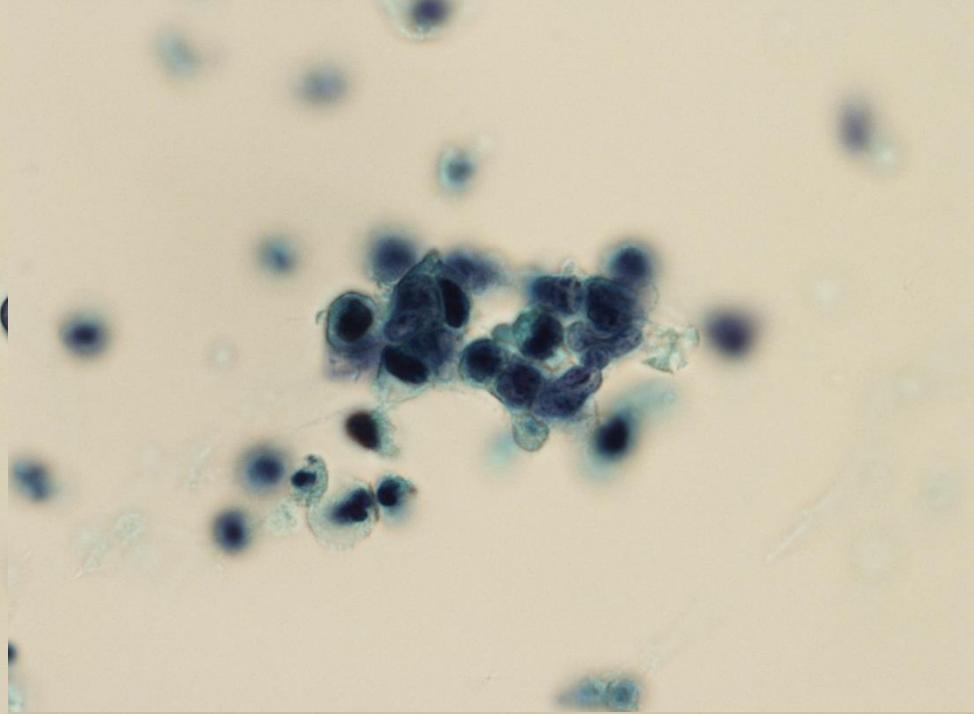
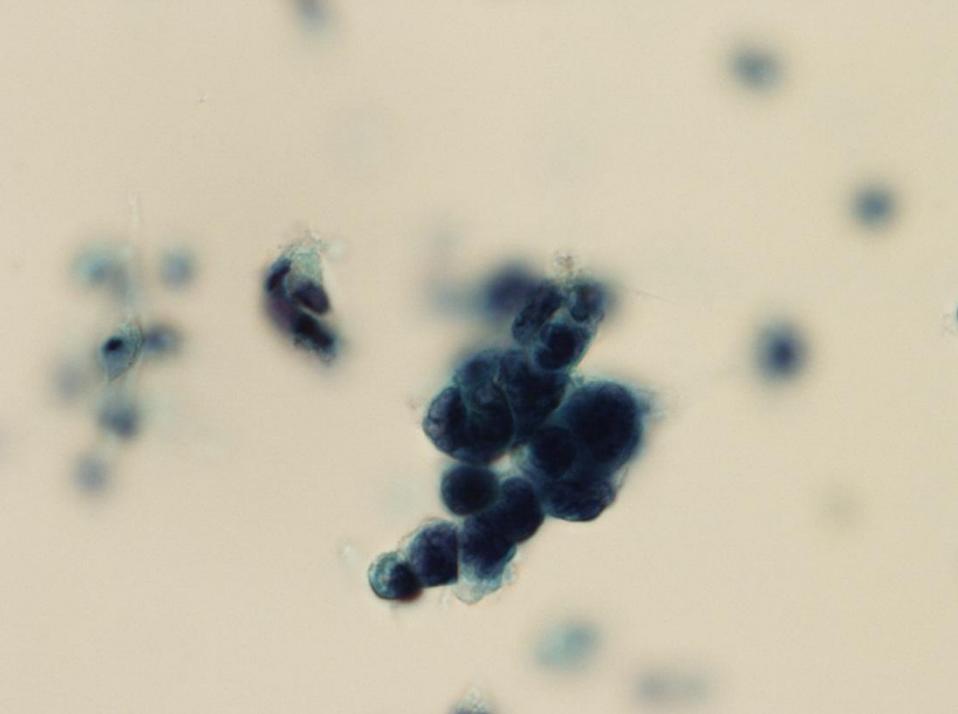
CD56, シナプトフィジン、CAM5.2 . . . 陽性
クロモグラニンA . . . 陰性

組織診断

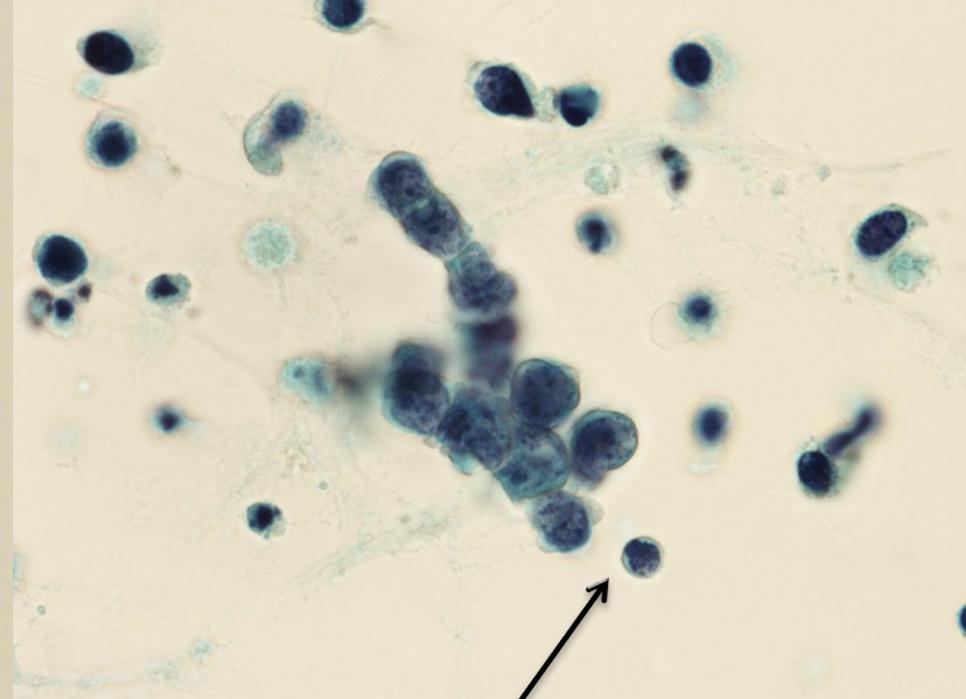
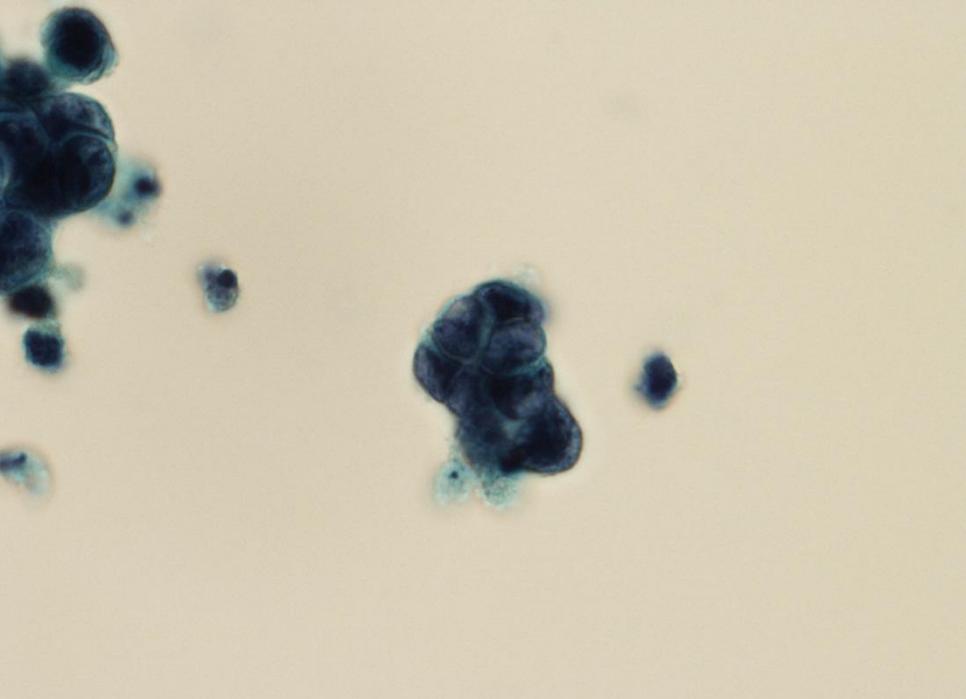
Small cell carcinoma, high grade, pT3b

INF- γ , u-lto u-rto uro, ly1, v1, ewo

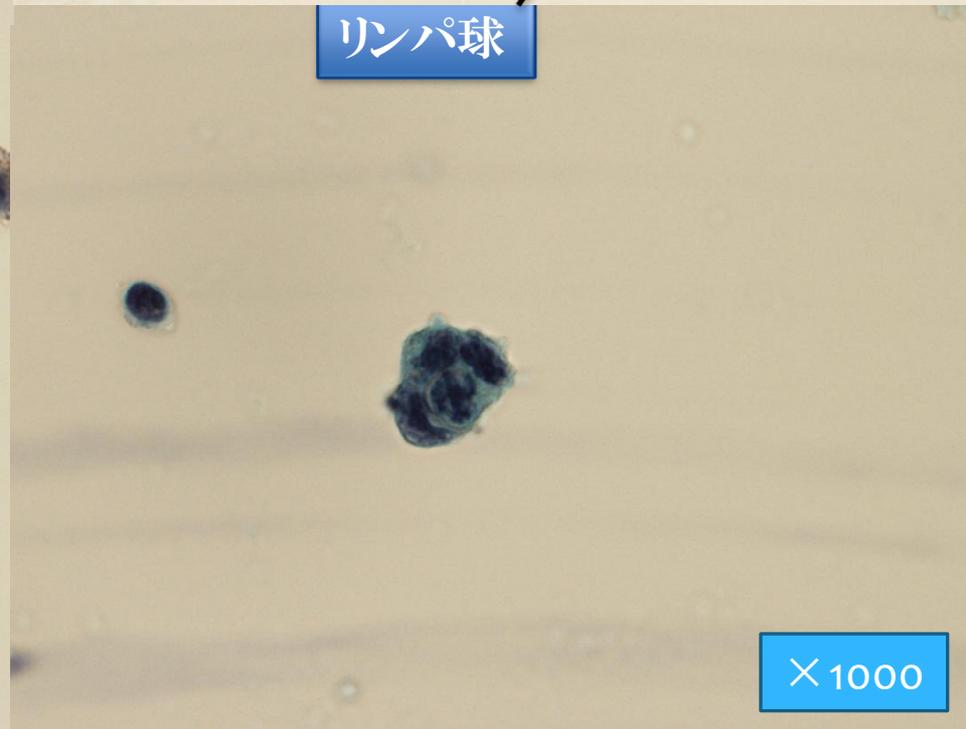
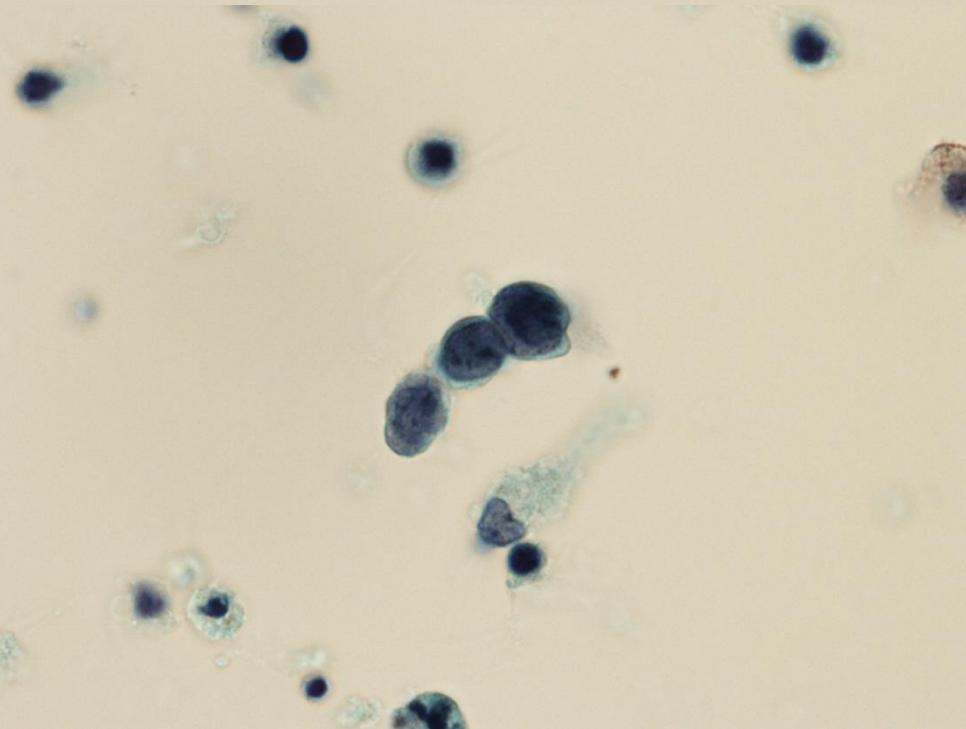




×1000



リンパ球



×1000

まとめ

- * 今回膀胱原発小細胞癌の一症例を経験した。
- * 膀胱原発小細胞癌は移行上皮癌などとの合併が見られることが多く、純粹型はきわめてまれである。本症例は膀胱全摘術がおこなわれ、小細胞癌よりなる腫瘍であることが確認された。本症例での細胞像を理解し、尿中に出現する小細胞癌の特徴の把握を行うことはきわめて重要である。
- * 細胞像を熟知し、自然尿、膀胱洗浄液の細胞診にて小型異型細胞集塊が認められた際には、小細胞癌の可能性も考慮し検鏡しなければならないと考える。